

令和5年度 富士宮市立富士根南小学校グランドデザイン(案)

■ 全ての教育活動の根幹:「子供一人一人は、かけがえのない存在である」
 ■ 目指す子供像:「富士山を心に夢をもって生きる子」 富士根南中:「こころざしをもち学び合う輝南の生徒」

これから求められる力

◎OECD学びの羅針盤
 *社会的・文化的・技術的ツールを相互作用的に活用する力 ①②③
 *多様な価値観に係るグループの人間関係の形成能力 ④⑥⑩⑪
 *自律的に行動する能力 ③④⑤⑧⑨
 *新たな価値を創造する力 ⑦⑨⑫
 *対立やジレンマを克服する力 ③④⑤⑧⑨⑫
 *責任ある行動をとる力 ⑤⑧⑨

◎ポストコロナの学校(中教審初等中等教育分科会)
 *(ICTを道具として使い熟す)自律した学習者 ①②③④⑤⑥⑨⑩⑪⑫
 ◎ESD(持続可能な開発のための教育)
 *課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫

本校の「強み」と「よさ」

子供 元気で明るく素直
判断・行動から自己効力感が高まりつつある
 仲間のようにとることを認めることができる
 親和的な自治的集団が形成されつつある

教職員 子供主体の授業づくりができてつつある
 組織的學校運営ができる

保護者 愛育会の組織力がある協力態勢がある

地域 学校愛と協力体制がある
 学校応援組織がある

基本理念 学校教育目標 「夢をもって、自ら考え 共に学ぶ子」

富士根南小学校の子供たちに育てたい12の資質・能力

生きて働く知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
① 文章の意味を正しく理解する力	④ 多面的・客観的に考える力	⑧ 自分事として捉え、行動する力
② 生活や既習事項と結び付け、転用可能な知識・技能とする力(汎用力)	⑤ 自己決定・自己選択する力	⑨ 先を見通してやり抜く力
③ 情報を選択・活用する力	⑥ つなげて話す力(コミュニケーション力)	⑩ 他者を認め、思いやる態度
	⑦ 新たな意味や価値を見出し形づくる力	⑪ 仲間と連携・協働する態度
	⑫ 自己を振り返る力、自己調整する力(メタ認知力)	

課題解決への具体策と改善方針・重点取組 (1学期)

○ 学年マネジメントタイムの「子供理解」は継続する。改善のカリキュラム・マネジメントについては、**春中の3つの側面の②を特に重視し、授業型の改善、ポストコロナの単元取組やデジタルリテラシーを推進化、授業と家庭学習をつなぐリンク学習による対話的で深い学びを実現する単元構想にPCGAサイクルを機能させ、授業改善の一層の充実を図る。**

○ リンク学習を推進し個別最適な学びと協働的な学びの往還を目指す。個別最適な学習では書くことに焦点を当ててリアルとデジタルの最適化を実現する。協働的な学習場面では、「あたたかな話し方、やさしい聞き方」を徹底して対話による深い学びを実現する。また、適切に振り返りて自己調整力を伸ばし、学力の2極化を解消する。

○ アクティブタイムでは、**ステージ制による課題発見・話し合い・協働的課題解決の営みを一層の充実を図る。短いサイクルでのPDCAサイクルを機能させ、振り返りを充実させて学習全体及び個人の自己調整力育成にもつなげる。**各学年、学級の取組を紹介し合うことで価値の共有を図り、一連の営みの一層の質的向上を実現する。

○ ステージ制に係る学級活動を軸に**ルール・リレーションの成立した親和的な人間関係のある環境づくりを推進し、計画的に人との関わりを深める自治的活動(課題を発見、話し合い、協働的な解決のサイクル)を確定し、どの子にもオーダーシップとフォロアシップを育て、1学期末までに中集団(ルールの習慣化・内在化)成立を目指す。**

○ ポスト・コロナであることを鑑み、**学校HP「学校の様子」を毎日更新して、子供の学びの様子を発信し、保護者が教育活動の進捗やねらいについて同時進行で理解を深め、子供のよりよい育成に学校と協働できるように情報発信を目指す。**学校だけでなく、学年ごとの一層の質の向上を図る。また、可能な範囲でリアルな交流活動を再開できるように調整する。



主な課題(令和4年度 学校評価より)

- 学年マネジメントタイム(学年部会)は9割を超える教員が、情報を共有する場として良好としているが、一層の機能化を求める声も聴かれる。子供の進捗状況や踏まえたカリキュラム・マネジメントの充実、各教科の単元構想の吟味など短時間で効果的に実施する工夫が必要である。子供理解・生徒指導に関しても同様である。
- 学力の2極化の問題が指摘されている。ICTを効果的に活用した個別最適な学びの実現や協働的な学びの場面で深い学びの実現とその往還が必要である。確かな学力の構築のためのリアルとデジタルの最適化が必要である。
- コロナ禍、アクティブタイムを利用した自治的活動に取り組み一定の成果が得られた学級は70%に留まる一方、「自分で考え判断して行動できている」と回答する児童は88%を超え子供の自己効力感も向上している。1人1台PC等を活用しながら、学級の課題を見出し、話し合いを経て協働的に解決する営みが繰り返されるように創意工夫する必要がある。
- 10月に実施した(3年生以上)QJ診断では、6学級が親和的まどまりのある全体集団成立期にあり、11学級が中集団成立期、小集団成立期以下(6学級であった。どの学級においても、「目指す学級像」を学級全体で確認し、それを達成するのに必要な「みんなが守る約束(ルール)」を理解させ、学級全体で取り組む体制(リレーション)を整える必要がある。
- HP・メール配信などの改善により、学校からの情報発信に係る保護者評価は94.2%は概ね良好である。コロナ禍、直接子供の様子を見られずに教育活動の意図が伝わらず不安に思う保護者も多い。地域・保護者と協働体制を築くため、加えて学校HPの平均アクセス数500人/日を維持、増強するために、情報発信の質の向上を図る必要がある。

学校経営目標の評価の観点(趣旨)	R4	目標値	1学期
* 学び合う授業は楽しく、内容がよく分かる。(市共通)		90.3	95.0
* 授業に家庭学習(予習・復習・自主勉強)が活かされている。		82.4	85.0
◎ PCを活用した家庭学習は楽しく、進んで取り組める。		84.6	85.0
* 単元(授業)のゴールに向けて、自分の学びを調整できる。		84.8	90.0
・「あたたかな話し方」ができる。		89.1	90.0
・「やさしい話し方」ができる。		83.4	90.0
* 自分で考え、よりよく判断し行動することができる。		85.6	90.0
* 自分の行動を振り返り、次に何をすべきか自分で分かっている。		87.9	90.0
・(学校生活の中に)自分で考え、進んで取り組める活動がある。		88.9	90.0
・人に指示されることなく自ら行動できる。		80.2	86.0
・「静かに、きれいな、ことばを意識して生活している。		84.6	88.0
・「課題を見出し、話し合いで解決策を決め、それに取り組んでいる。		—	85.0
・「i-check」において規範意識・対話・話し合いの評価が全国平均以上		—	—



教育支援部
 ◎ 特別支援教育・就学支援の違いを明確にした教育支援の質の向上
 ◎ 子供理解・発達障害に係る研修会実施(特別支援教育相談員・i-check活用)
 ◎ 合理的配慮の組織的な取組によるインクルーシブ教育システムの構築
 ◎ いじめ・不登校早期対応システムの構築・効果的な運用の実現
 ◎ SC・SSW、関係機関等と連携した教育相談、拡大ケース会議の充実

環境支援部
 ◎ 豊かな学びを創出する教育環境の工夫と整備(GIGAスクールの実現)
 ◎ 安らぎを生む学校施設リニューアル(IBP室の改修・外国語教室の整備)
 ◎ 大規模校のよさを活かした業務改善・働き方改革の推進(チームおみなみ)
 ◎ 教育効果を最大限に引き出す適正な予算執行の実現、費用対効果の確保
 ◎ 社会に開かれた学校教育の実現(情報発信・受信の計画的実施)

地域との連携(横の連携)	保護者・家庭との協働	幼保・中・高との連携(縦の接続)
□ 学校応援団(PTA+C)との協働 ・地域の人的教育資源の積極的な活用 □ 通学路の防災・交通安全一斉点検と改善 □ 通学路の防災・交通安全一斉点検と改善 □ 青少年健全育成協議会との連携 □ 登下校の安全確保(地域見守り隊との協働)	□ 適時・適切な情報発信による保護者との協働体制の構築 □ 通学路の防災・交通安全一斉点検と危険箇所への選定・改善 □ 親子読書の日・ファミリースポーツデーの実施 □ 図書ボランティア等による図書館環境の向上 □ 愛育会の活動支援	□ 幼保・小交流事業(ようこそ1年生)の実施 □ 小中連携・小中合同研修会の実施 □ キャリア教育の充実 ・中学校体験入学、ようこそ先輩の実施